

「VISION2050 – 事故を振り返り未来を見据える」 – 原子力の未来像を考える –
第一部 講演と報告「課題の前提条件の変化を認めよう」

原子力・放射線領域の学術としての 魅力を保つために

課題を見つけ出す工夫・仕組みをどのように具体化していくか

羽倉尚人（WG幹事、都市大）

岡村知拓（学生連絡会、東工大）

吉永恭平（若手連絡会、三菱総研）

【本テーマのメンバー】

羽倉尚人（都市大） 中森文博（電中研） 寺阪祐太（JAEA） 吉永恭平（MRI）
叶野翔（東大） 岡村知拓（東工大） 村本武司（東工大） 佐藤優樹（JAEA）
村上健太（長岡技科大） 川村慎一（日立GE）

1. これまでの論点の整理
2. 分野横断的取り組みの事例
3. 今後の進め方

原子力学会の理念

公衆の安全を全てに優先させて、原子力および放射線の平和利用に関する学術および技術の進歩を図り、その成果の活用と普及を進め、もって環境の保全と社会の発展に寄与することを目的とする、日本で唯一の総合的な学会です。

3.11の総括を踏まえて

- ◆ 「他者に学ぶ」「過去に学ぶ」姿勢が希薄だった。
 - ◆ 学会内の協働・連携が不十分だった。
 - ◆ 全体を俯瞰、統括する「知」が欠如していた。
 - ◆ 自由で率直な意見交換を妨げる環境があった。
- 学会の今後の在り方に対する改善策の検討と実施

学会事故調 最終報告書 7.5原子力学会の役割 より抜粋

課題を共有し、価値を創出するための
あらゆるコミュニティとの協働作業が必要



いろいろな人が入ってくる場
でなければならない

- 主体的な「他者」へのアクセス（例えば、理学系、医療系、女性の多い分野 など）
- 参加へのハードルを下げるためのオンラインの活用
- 学会内の専門分野間の協働・連携に向けた取り組み



日本原子力学会

会員が有意義と思う、課題の抽出を行えるような「活発な分野横断的な議論の場」を創出し、同時に各専門領域における議論を活性化させることが、この分野の発展に寄与するのではないか？

- 部会**
- ◆ 炉物理部会
 - ◆ 核融合工学部会
 - ◆ 核燃料部会
 - ◆ バックエンド部会
 - ◆ 熱流動部会
 - ◆ 放射線工学部会
 - ◆ ヒューマン・マシン・システム研究部会
 - ◆ 加速器・ビーム科学部会
 - ◆ 社会・環境部会
 - ◆ 保健物理・環境科学部会
 - ◆ 核データ部会
 - ◆ 材料部会
 - ◆ 原子力発電部会
 - ◆ 再処理・リサイクル部会
 - ◆ 計算科学技術部会
 - ◆ 水化学部会
 - ◆ 原子力安全部会
 - ◆ 新型炉部会
 - ◆ リスク部会

【部会員】（延べ人数）
 正会員 4,856名
 学生会員 617名

会員

正会員 5,731名
 学生会員 346名

**専門
委員会**

- ◆ 研究専門委員会
- ◆ 調査専門委員会
- ◆ 特別専門委員会

正会員では発表が目的の会員（ライトユーザー）が多い。部会活動も含めた学会活動を行う会員（ヘビーユーザー）の増強のためには何が必要か。

連絡会

- ◆ 学生連絡会
- ◆ 若手連絡会（YGN）
- ◆ 海外情報連絡会
- ◆ シニアネットワーク連絡会（SNW）
- ◆ 核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会

【事例紹介】 専門分野の枠組みを超えたつながり



学生間のネットワーク
学生ポスターセッション、対話会などの
活動を展開し分野横断的なつながりを実践



日本原子力学会 若手連絡会

AESJ | Japan Young Generation Network

39歳以下のネットワーク
若手討論会、若手勉強会などの活動を展開し専門分野
を超えたつながりを実践



「原子力の価値をどう理解してもらおうか」ではなく、
「社会の中で原子力をどう活かせるか」考え、対話する枠組みがある



最終報告に向けて

3.11の総括を踏まえて

- ◆ 「他者に学ぶ」「過去に学ぶ」姿勢が希薄だった。
 - ◆ 学会内の協働・連携が不十分だった。
 - ◆ 全体を俯瞰、統括する「知」が欠如していた。
 - ◆ 自由で率直な意見交換を妨げる環境があった。
- 学会の今後の在り方に対する改善策の検討と実施

学会事故調 最終報告書 7.5原子力学会の役割 より抜粋

課題を共有し、価値を創出するための
あらゆるコミュニティとの協働作業が必要



いろいろな人が入ってくる場
でなければならない

継続して議論を進めようとしていること

- 「他者に学ぶ」場、継続的な議論の場をどのように設計し、どのように実行していくか
- 部会・連絡会、他学会のGood Practiceに学ぶ
- 「知」の蓄積としてのJNSTにポジションペーパーの様なレターの創設
- 社会からのフィードバックをもらうプロセスをどう明確化するか
- スケジュール感（短期、中期、長期）を含めた提言の取りまとめ

以下は資料として

会員数（2020年9月末時点）

正会員・学生会員

支部名	正会員①	正会員②=卒業予定者	学生会員	教育会員
	人数	人数	人数	人数
北海道	100	1	35	0
東北	405	0	27	0
北関東	1,580	1	25	0
関東・甲越	2,223	8	113	2
中部	285	2	46	3
関西	845	2	63	0
中国・四国	141	0	5	1
九州	152	1	32	0
合計	5,731	15	346	6

会員数（2020年9月末時点）

部会

名称	推薦会員	正会員①	正会員②=卒業予定者	学生会員	教育会員	合計
炉物理	5	316	2	51	0	374
核融合工学	5	239	2	57	0	303
核燃料	3	311	1	39	0	354
バックエンド	2	517	2	33	0	554
ヒューマン・マシン・システム	0	82	0	16	0	98
熱流動	3	302	1	27	0	333
放射線工学	1	243	1	36	0	281
加速器・ビーム科学	2	139	2	31	0	174
社会・環境	2	152	1	19	0	174
保健物理・環境科学	0	197	2	20	0	219
核データ	1	186	1	41	0	229
材料	3	224	1	53	0	281
原子力発電	4	289	1	27	0	321
再処理・リサイクル	2	329	1	32	0	364
計算科学技術	0	182	1	34	0	217
水化学	1	183	1	13	0	198
原子力安全	2	399	2	38	0	441
新型炉	2	244	1	29	0	276
リスク	0	299	0	21	0	320
合計	38	4,833	23	617	0	5,511

連絡会

名称	推薦会員	正会員①	正会員②=卒業予定者	学生会員	教育会員	合計
海外情報	3	110	2	43	0	158
核不拡散等	0	49	2	30	0	81
シニア	2	174	0	0	0	176
合計	5	333	4	73	0	415

未来像WG アンケートより

- ◆ 情勢の変化や各部会での発表件数を踏まえた部会の再編
- ◆ 原子力学会という枠組みがあること自体が未来のあるべき姿なのか「？」原子力・再生エネルギー学会になってもよい
- ◆ 国際援助機関と原子力学会との接点を設けることが望まれる
- ◆ 地域ごとの人脈と情報の断絶に危機感。海外との連携は現在は部会単位がメインだが学会全体としての考え方を整理することも必要では
- ◆ 学術的・技術的課題の追及やその理解活動を中心とし、原子力エネルギー利用の促進を目指す産業界との立場の違いを明確化すべき
- ◆ 1F事故対応や原子力規制（サイエンスとして取り扱いができない分野）などに対し、学会は直接的な関与を控えるべき
- ◆ 双方向的にフィードバックをかけるような姿勢
- ◆ 合理性に欠ける垣根を取り払いたい
- ◆ 推進派/反対派の2つの議論が共存できる環境の整備
- ◆ 小中高生や一般の方ともつながれる機会があるとよい
- ◆ 放射線利用等の観点から社会へ恩恵を与えているという点の理解活動
- ◆ 市民に安心を与えられる頼れる存在
- ◆ 学会HPを魅力的なものに
- ◆ 一般向けの講座の開設
- ◆ 広報的な役割を果たせる人材の育成
- ◆ 教訓を他分野へ波及
- ◆ 意見や考え方の多様性が欠如
- ◆ （年会・大会において）国プロなどの連番発表が多い。単独発表が増えることを望む。